

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

公表： 令和 6年 2月22日

事業所名 キノコにじいろクラブ

保護者等数（児童数）33

回収数 17

割合 52%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	16	1			・利用児の人数が多い時は、少し狭さ、危なさを感じる時もある。	ダイナミックに動けるスペース確保とリスク管理を同時に行なっています。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	16			1		職員の専門性を担保できるように、人材教育カリキュラム作成を進めています。また、HPにて職員募集にも力を入れています。
	3 生活空間は、 <u>本人にわかりやすく構造化された環境*1</u> になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	14	2		1		町の施設を借りているため大掛かりな改修は難しいですが、必要に応じて構造化を行い、子どもたちにとって快適な環境や、子どもの発達特性に合わせて環境の調整をしています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	13	3		1		日々の清掃に加え、毎月清掃週間を設定していますが、年単位でも環境整備検討を行ってまいります。清潔さを感じていただける工夫をしています。
適切な 支援	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、 <u>児童発達支援計画*2</u> が作成されているか	16			1		面談時の利用児や保護者のニーズを取り入れながら、作成を行なってまいります。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	15			2		事業所でできること（発達支援＝直接支援）、家庭でできること（家族支援＝ペアトレ）、関係機関との連携でできること（地域支援＝保育所等訪問など）を支援計画の中でわかりやすく示していきます。

の 提 供	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	16			1	目標に対して具体的にどのような支援を行っているかをお伝えしていきます。
	8	活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	15	1		1	子どもたちの主体性を大切にしつつ、それぞれの課題を組み込んでまいります。
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	15		1	1	・未就学 保育所等訪問を通じて交流を促進するための支援を行います。にじいろDayなどの活動を通じて、利用児以外の方とも関わりを継続します。
保 護 者 へ の 説 明 等	10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	17				引き続き、わかりやすく丁寧な説明に努めます。
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	17				引き続き、わかりやすく丁寧な説明に努めます。
	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング*4等）が行われているか	16	1			保護者が同伴できない場合でもホームトレーニングの伝達や具体的な関わり方の工夫をお伝えしていきます。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	16	1			保護者とのこまめな情報共有の重要性を共有し、努めてまいります。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	17				引き続き、安心して相談できる関係性作りに努めます。
15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	11	4		2	「保護者勉強会」という名称を「にじいろ保護者会（仮称）」に変更し、テーマを変えながら気軽に参加していただけるようにしていきます。	

	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	17					引き続き、相談や申入れに対して迅速丁寧に対応できるように努めてまいります。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	17					今後も子どもたちや保護者がわかりやすく安心できる言葉掛けを心がけます。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	17					昨年リニューアルしたHPをフル活用しつつ、状況に合わせて皆様に届きやすい媒体を使い分けながら発信を行います。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	16	1				個人情報の取り扱いには十分注意し、リスク管理意識を全員が持てるよう共有してまいります。
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	13	2		2	・訓練は分からない	避難訓練については年4回以上実施していますが、LINE VOOMでの報告を見落とされている方も多いようなので、今後別の媒体で実施報告を検討します。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	13	1		3	・訓練は分からない	上記の通り別の媒体での実施報告を検討しながら、例年通り保護者説明会でも実施報告をいたします。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	16	1				子どもたちに「楽しかった」「満足」と思ってもらい、モチベーションになれるように努力いたします。
	23	事業所の支援に満足しているか	17					今後も質の高い支援が提供できるよう職員一同研鑽してまいります。

\*1 「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

\*2 「児童発達支援計画」とは、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

\*3 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

\*4 「ペアレント・トレーニング」とは、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標としています。

